

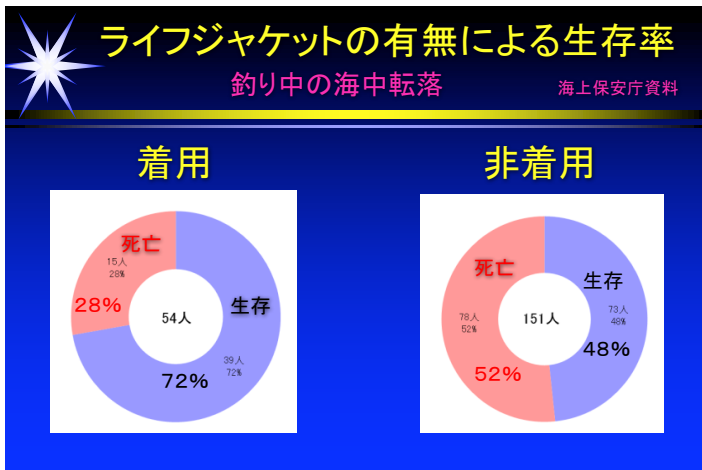
第16回学校水泳研究会

子どもたちが学ぶべきwatersafetyとしての"uitemate"と
"uitemate"により津波から生還した少女の事例

一般社団法人 **水難学会**
田村祐司(東京海洋大学)
安倍 淳(宮城県朝日海洋開発)

平成28年6月4日(土) 鷹門教育大学

水難学会



子ども・市民の水辺安全対策

水辺活動 **ライフジャケット(PFD・浮力体)装着が原則!**

ライフジャケット無し 落水・深みにはまる → 沈水
沈水 → パニック → 溺水
→ 背浮き → 呼吸確保 → 浮いて救助を待つ!
「ういてまで!」

○ 水防災(水中転落、深みにはまる、洪水、津波等)
日本国民の背浮き技能習得の必要性

水難学会の使命

会員1,500名(約8割が消防職員)
消防(水難救助隊) 日常 水難救助技能訓練
しかし、8分30秒
119番・救助要請 → 水難現場到着 → 要救助者は沈水
救助技能が活かせない! 遺族の悲しみ
大切なのは! 要救助者(溺水者)のサバイバル能力養成!
要救助者が「背浮きでういてまつ」技能習得の必要性
→ 「背浮き」教育・溺死予防教育 → 普及

学校水泳教育内容の国際比較

1. 欧米 **サバイバル水泳に力点、深いプール**
→ 不意な落水時での溺水予防のため
2. 日本 **競泳水泳に力点、浅いプール**
→ 各種泳法(クロール、平泳ぎ)を習得し、速く泳げることを評価項目とする

★ 文科省小学校学習指導要領(水泳)

技能項目

- ① 低学年(1・2学年) 水慣れ遊び、浮く・潜る遊び
- ② 中学年(3・4学年) 浮く運動、泳ぐ運動
- ③ 高学年(5・6学年) クロール、平泳ぎ

○水難時サバイバルプログラム

高学年の態度項目 (着衣泳)

「着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方については、各学校の実態に応じて取り扱うこと。」

★ 着衣泳って、どんな泳法？

着衣泳・・・20年前に安全水泳教育として全国普及

- ① 衣服を着て落水したら、クロールでなく **平泳ぎ** で泳ぐ
- ② 身の回りの**浮力体**(ペットボトル・レジ袋 他)保持で救助を待つ

水難学会(旧・着衣泳研究会)

着衣状態で水中転落 → **背浮き** 姿勢


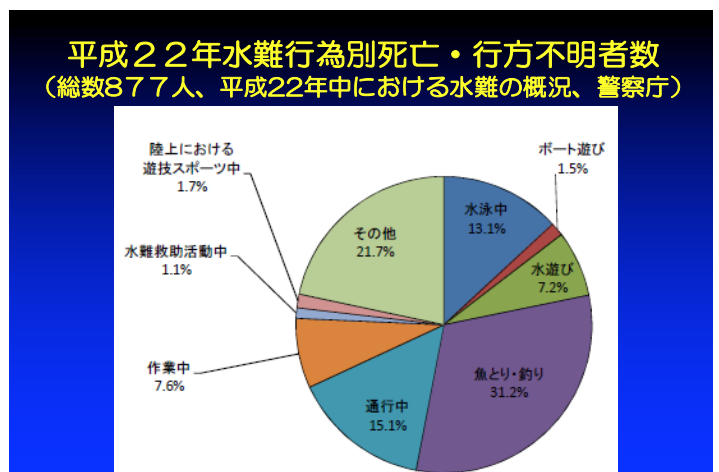
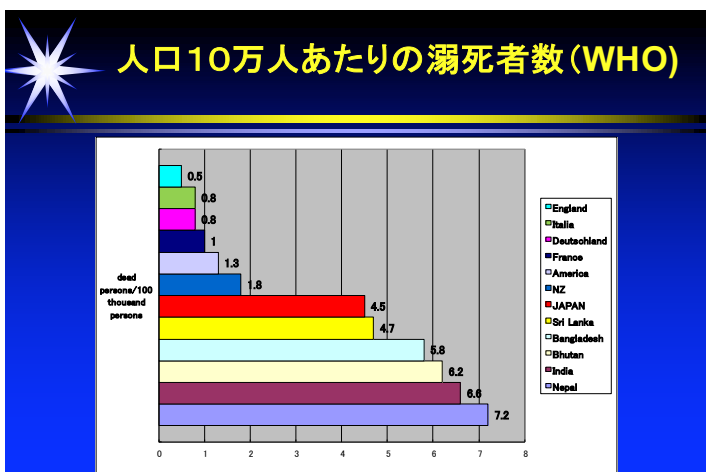
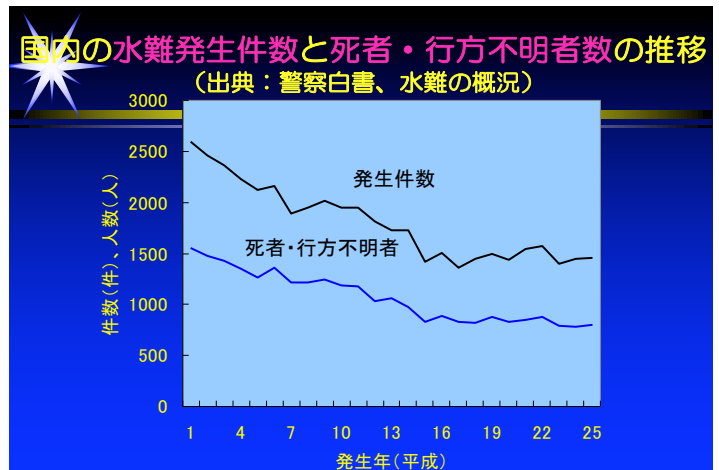
ういてまで・Uitemate 全国の小学校、東南アジアへ普及

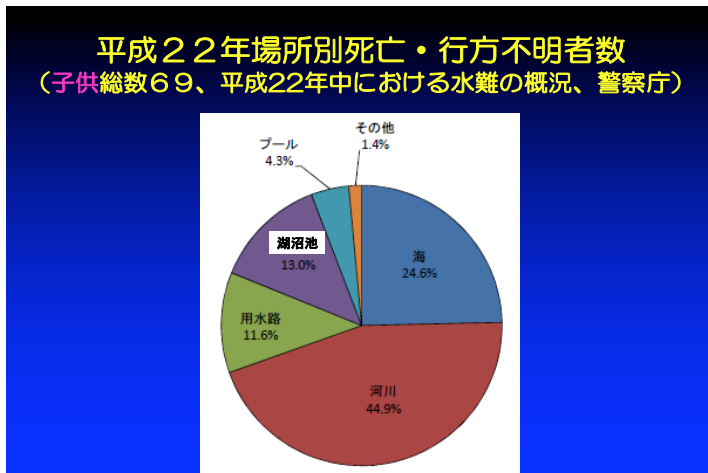
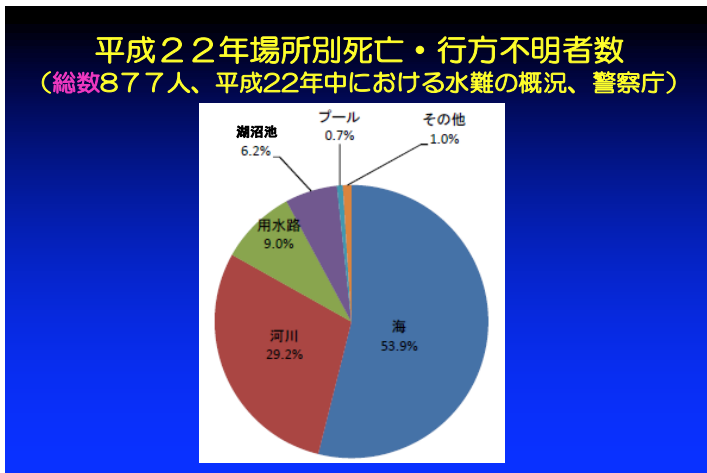
背浮きで呼吸確保 → **水面待機姿勢**で体力保持

- ① 着衣状態での**背浮き**姿勢と**移動法**(背面キック泳)
- ② 身の回りの**浮力体**保持による**様々な浮き身姿勢**

溺死予防技能 「背浮きで浮いて待つ」着衣泳

服と靴を身につけた状態で背浮きで水に浮いたり、水面を移動する技術



指導員(プール)養成講習会 水難学会

平成25年中の水難の概況 (警察庁)

高校相当年齢以上の水難

- 発生件数1,261件
- 水難者数1,395人
- うち、無事救助者631人 → 生還率(全生存者 / 水難者数) **45.2%**

指導員(プール)養成講習会 水難学会

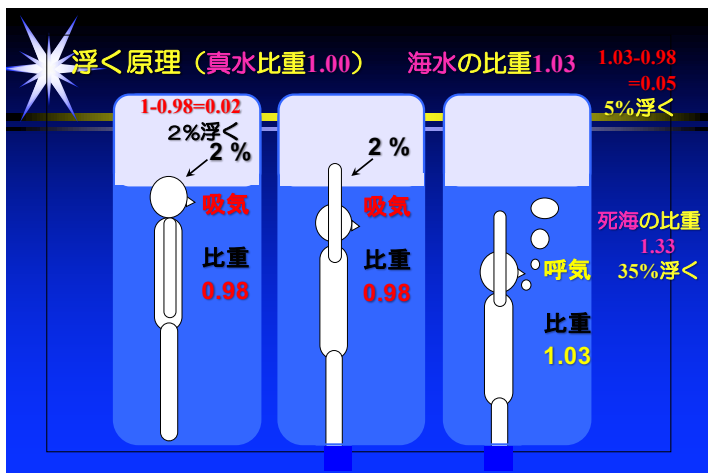
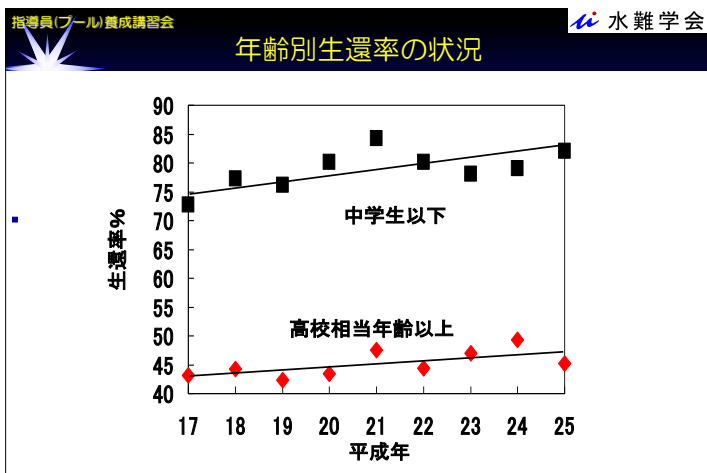
平成25年中の水難の概況 (警察庁)

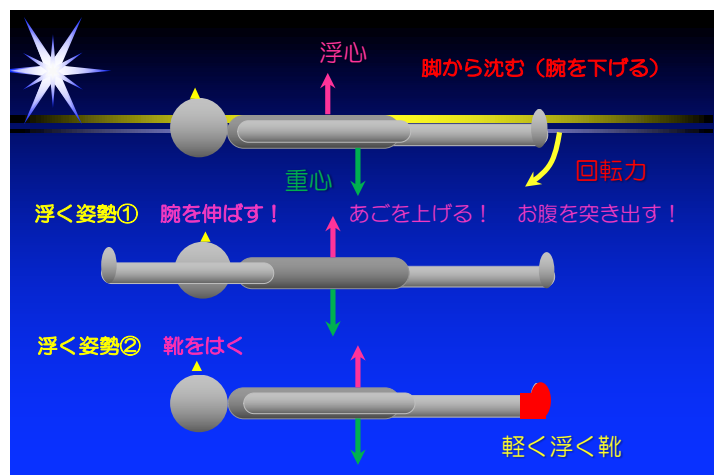
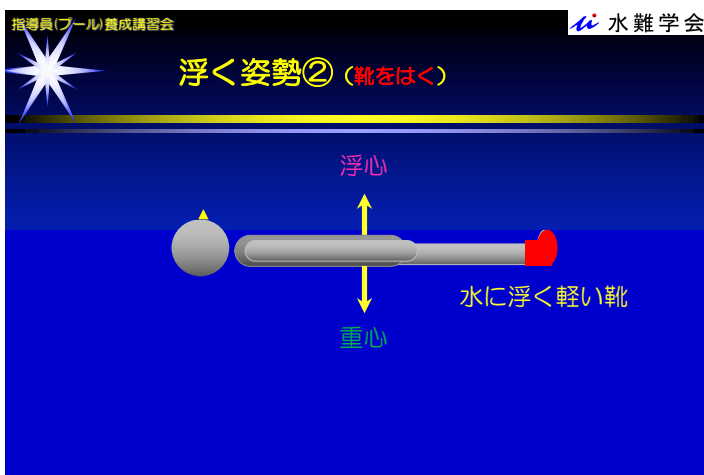
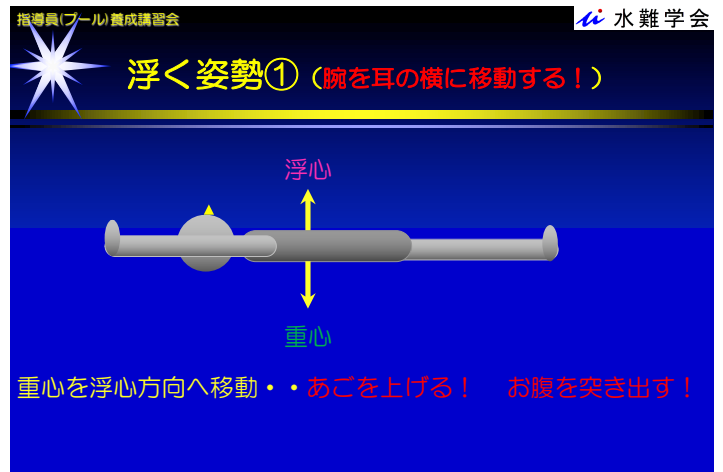
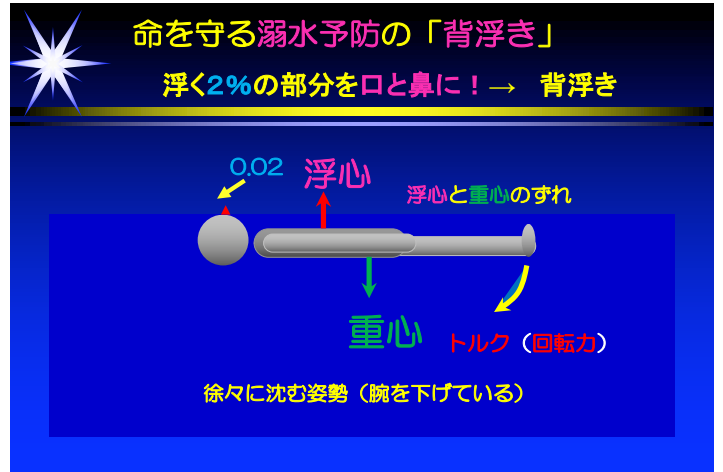
高校相当年齢以上の**大人**の水難

- 発生件数1,261件
- 水難者数1,395人
- うち、無事救助者631人 → 生還率(全生存者 / 水難者数) **45.2%**

中学生以下の**子ども**の水難

- 発生件数198件
- 水難者数244人
- うち、無事救助者200人 → 生還率 **82.0%**





「背浮き」 基本姿勢

合言葉は
“UITEMATE”

大きく息を吸い、空気を肺にためる。あごを上げて上を見ると呼吸しやすい

手は水面より下に。ペットボトルやかばんがあれば胸に抱える

手足を大の字に広げる

靴ははいたまま。軽い靴は浮き具代わりに

朝日新聞より

溺れそうな人がしてはいけない事

— 注意 点 —

体が水面から出るのは体全体の2%

背浮きして手を上げると顔や体が沈む

肺は体の浮袋

顔を浮かせるため、浮具を持つ腕はできるだけ水上に出さない

助けて!

大声を出すと肺の中の空気が抜けて体が沈む

河北新報より

背浮き 海での「浮いてまで」 海洋大講習会

浮いて待っていた生還事例 ①

平成26年7月27日(日) 東伊豆 伊東 屋過ぎ
スノーケリング中の29歳男性 遭難

「浮いて待っていれば、救助される！」

<環境> 40km・22時間 背浮きで漂流

- ①潮流：北→南
- ②風向：東→西
- ③水温 26℃
- ④マスク・フィン・ラッシュガード着用
- ⑤背浮きで呼吸確保

翌朝 下田海岸に漂着 ライフセーバーが救助

浮いて待っていた生還事例 ②

東日本大震災 大津波 宮城県東松島市

- ・ 海岸線より1.2km内陸の小学校体育館
- ・ 地震後避難場所、津波侵入、2mの津波高
- ・ 小6少女(毎学年、着衣泳授業)

- 1)靴の浮力により背浮きで浮く、両足を広げる
- 2)母からの呼びかけに答えず、浮き続け救助

「お母さんに返事をしたら、肺の空気が減るので、返事をあえてしなかった！」

娘に心 支えられ

絶望のうちに「弟は生きてる」